

◎排気系

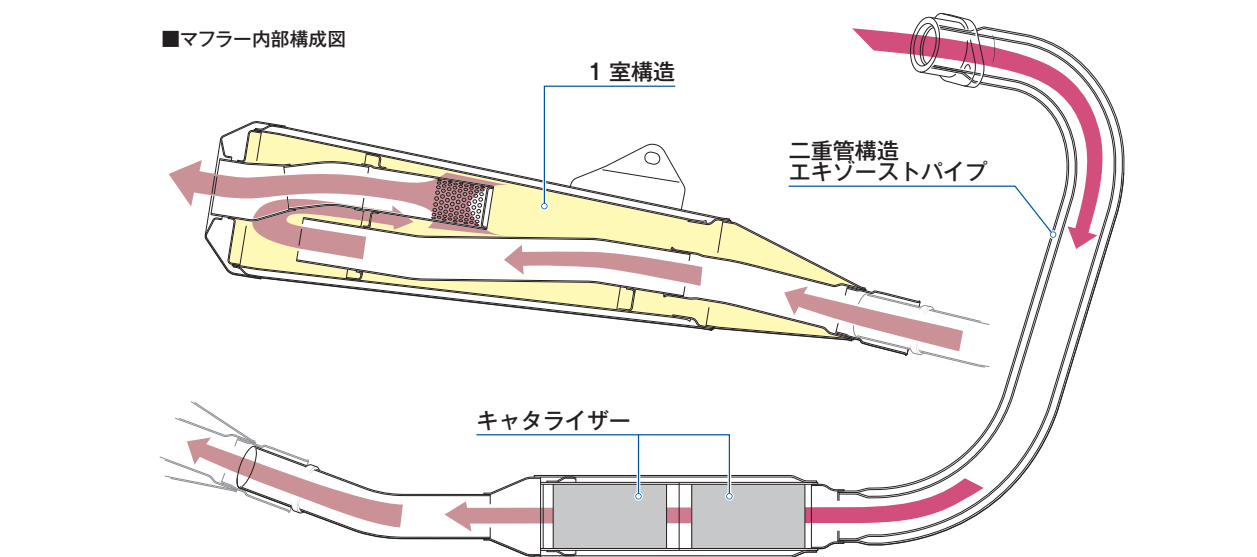
単気筒エンジンを持つGB350シリーズのキャラクターを体現する特徴の一つとして、エンジン諸元設定など開発初期段階よりサウンドの質を検討しました。また、ライダーに鼓動を伝える音の成分を定量的に可視化することで、より精細な音質のマネジメントを図りました。

GB350シリーズのサウンドで目指した鼓動感は、迫力ある重厚な低音を主成分とし、弾けるように急激に立ち上がる高音成分をそこに加えることを重要視し、それを生み出すマフラー構造としました。

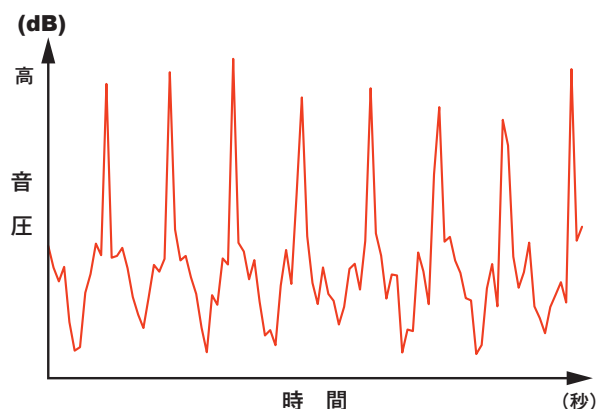
マフラー内部の排気管長をマフラー後端部まで確保することにより低回転域でのトルクフルな走りに寄与させた上、大径φ45mmのテールパイプを採用し、マフラー容量とのバランス最適化を図り力強い低音を作り出しています。同時に、膨張室をシンプルな1室構造とすることで燃焼に起因する音の鋭さをテールパイプまで導き、燃焼そのもののエネルギーに満ちた“鼓動”がライダーにクリアに伝わるようにチューニングしました。

これらにより、GB350シリーズはスロットルグリップ操作とギア選択によるエンジン回転変化に素直に反応する、歯切れの良い“鼓動”を実現しました。

加えて、エキゾーストパイプを二重管構造とすることでGB350ではクロームの、GB350 Sではマットブラック仕上げの熱による変色を抑え、キャタライザーをアンダーパイプに沿わせて直列に配置するなどの配慮によりバンク角確保を図りながらスッキリした完成車外観に寄与しています。



■排気音圧 波形イメージ



■排気音 周波数イメージ

